

日中関係は本当に最悪なのか 政治対立下の経済発信力

2万社の日系企業が1000万人雇用を創出している中国市場。経済人から33人がビジネス現場から日中関係打開のヒントを伝える！

日系企業2万社を代表する個々の現場に焦点

現在の日中関係は「最悪」と言われるが、経済の分野ではどうか？ 中国には2万社を超える日系企業が存在し、1000万人の雇用を創出している。この数字の裏にある個々の現場に焦点を当て、「本当に最悪なのか？」と問いかけたのが本書。

中国ビジネス最前線の経済人33人が執筆

執筆者は中国でビジネスにかかわる日中の経済人ら33人。中国の高速鉄道に使われるレール固定金具を生産する工場経営者からランドセルを売り込む2代目実業家、過酷な飲用水ビジネスに取り組む元日本語教師の女性社長、また納豆、カレー、日本酒、有機野菜などの「食」や、環境保護、高齢者介護で新たな商機を求める日系企業など。さらに在外公館や自治体など民間を支える官の視点も盛り込まれる。

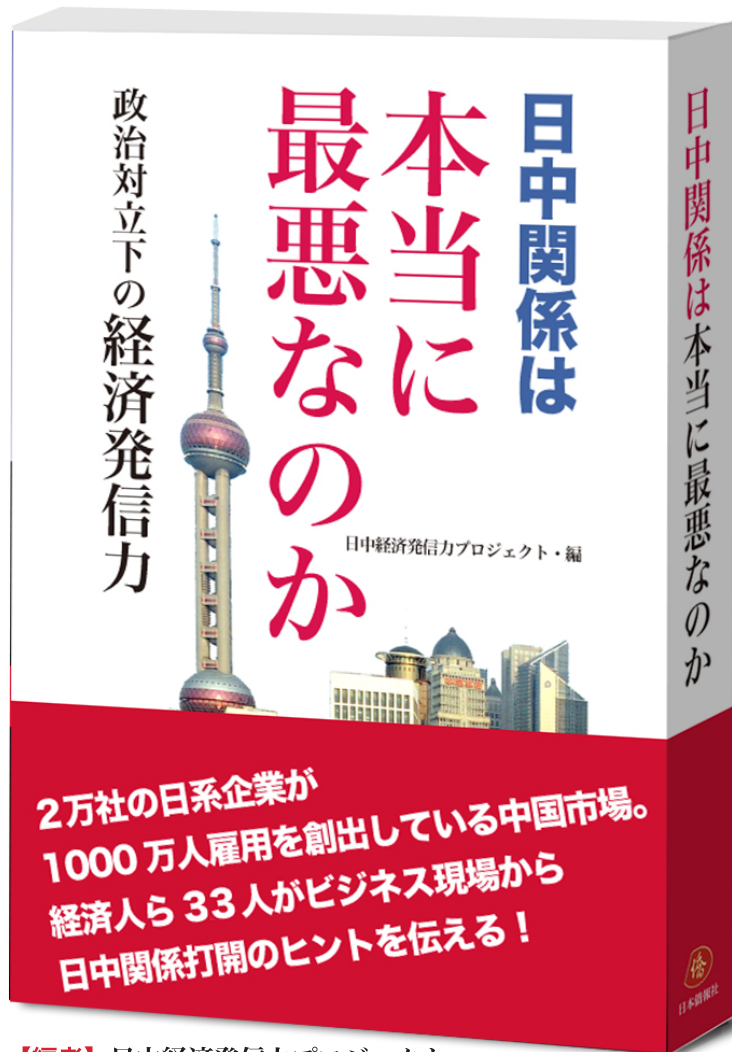
日中の実像に迫る生の声が満載

世界最大の人口を抱える一大消費地・中国は、世界の企業がせめぎ合う主戦場の一つ。そんな巨大市場を舞台として、本書に描かれるのは必死に生き残りの道を模索しつつ、現地にしっかりと根を張る多くの日系企業の姿。日中ビジネスの実像に迫る生の声だ。それは両国の相互理解を、経済をはじめとする民間を通じて深めるための格好の最新リポートとなっている。

目次

- はじめに 新たな日中関係を構築する時代に
- 第一章 技術力で挑む巨大市場
- 第二章 「反日」を乗り越える
- 第三章 問われる「和」ブランドの真価
- 第四章 チャンスを生む環境問題と高齢化社会
- 第五章 13億人がターゲットの「食」ビジネス
- 第六章 これからの日中経済見取り図
- おわりに 「嫌中」「反日」より「知中」「知日」が重要

日中経済発信力プロジェクト・編



【編者】日中経済発信力プロジェクト

本書の姉妹書『日中対立を超える「発信力」—中国報道最前線総局長・特派員たちの声』（段躍中編、2013年9月）をきっかけに、日中関係の中心である経済分野における現場の声を日本に伝えようと発足した。日本と中国という引越しのできない隣人同士が“ウイン・ウイン”の関係を築くために、またお互いが尊重し合い、理解し合いながら気持ちの通った関係を築くことを目的としている。

ご注文は、日本僑報社 e-shop (中国研究書店) をご利用いただくか、またはこのチラシを書店にご提示ください。(トーハン 日販 その他 取次コード：5752)

御注文	送信 FAX 03-5956-2809		日中関係は本当に最悪のか— 政治対立下の経済発信力 ISBN 978-4-86185-172-8 発行日：2014年10月1日 四六判 320頁 並製 定価：本体1900円＋税	番線印
	御住所 〒	注文部数		
	御氏名	日本僑報社 e-shop http://duan.jp		
	御電話			